

第5学年3組 道徳科学習指導案

第5学年3組(児童数 33名)

授業者 田邊 佳代子

1 主題名 社会の役に立つとは(内容項目:C「勤労、公共の精神」)

2 ねらいと教材

(1)ねらい 勤労や社会奉仕の意義、やりがいを理解し、公共のために役立とうとする態度を育てる。

(2)教材名 「クール・ボランティア」(出典:「5 きみが いちばん ひかるとき」光村図書)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について

働くことは、人が自立して生きていく基礎となる活動であり、社会で生活する人々を支えるものである。そして、一人一人が働くことよさや大切さを知ることにより、みんなのために働こうとする意欲をもち、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びをも味わうことができる。働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことを通して、その意義や役割を理解させることは、将来の社会的自立に向けて、勤労観や職業観を育む上で欠かせない。

利害勘定や、損得勘定で動いてしまう自分本位な心の弱さに打ち勝ち、公共のために役立とうとする態度を育てるために、そうした活動から得られる充実感や喜びを感得できるよう指導していきたい。

(2)児童の実態について

公共のために働いたときの充実感や喜びを感得できるように、以下のような指導を行った。

①委員会活動

初めての委員会活動では、6年生とともに学校のリーダーとしての自覚をもち、役割を担うことの意義について指導してきた。休み時間に友達と声を掛け合いながら働く姿を取り上げ、称賛した。

②係活動

係活動への取組をより一層充実させるために、「ナイスカード」、「リクエストカード」を使って、係間でのやり取りができるようにした。その結果、相手意識をもって活動内容を工夫する姿や、周りから認められることの喜びを味わいながら活発に活動する姿が増えてきた。

上記の姿が見られる一方で、清掃活動や当番活動など、毎日の決められた仕事や、人の目が届かない場所での役割にやりがいを見いだせず、手を抜いてしまう児童もいる。そこで、本授業を通して、公共のために働いたときの充実感や喜びを感得し、公共のために役立とうとする態度を育てていきたい。

(3)教材について

身近なボランティアには興味をもてず、海外協力や技術指導のようなスケールの大きいボランティアこそが、かっこいいものだと思っている主人公の信二。青年海外協力隊の西田さんに誘われ、歩道橋掃除を手伝うことを通して、「クール・ボランティア」の意味を考えていく。児童を信二に自我関与させ、ボランティアに対する考え方の変化を捉えることで、働くことの意義に迫っていきたい。

4 学習指導過程

	学習活動 ○主な発問・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>1 「働いていること」について発表する。</p> <p>○みなさんは、学校や家庭、地域で、どんな「働く」をしていますか。</p> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;">「働く」とは、どんなことだろう。</div>	<p>□本時で扱う内容項目への意識付けを行う。</p>
展開	<p>2 「クール・ボランティア」を読んで話し合う。</p> <p>① 「カッコいいなあ。そういうボランティアなら、やってもいいかな。」と言ったときの信二は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西田さんみたいに、海外で行うボランティアなら興味もてるな。 ・ごみ拾いは面倒だけど、カッコいいボランティアならやってもいいな。 <p>② 「君も、ちょっと手伝って見ないか。」と言われたとき、信二はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋の掃除なんて大変そうだな。 ・面倒だけど、西田さんから言われたら断れないな。 ・なんで掃除なんてやらなくちゃいけないんだ。 <p>③ 額に大つぶの汗を光らせながら歩道橋を掃除しているときの信二は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいになるって気持ちがいいな。 ・歩道橋を使う人が、喜んでくれたらいいな。 ・もっときれいにしたいな。 ・誰かの役に立っているのかな。 	<p>□資料名を板書した後、事前のアンケート結果を紹介しながら「ボランティア」に対するイメージを共有する。</p> <p>□電子黒板に教材の挿絵を提示しながら教師が読み聞かせをすることで、教材に浸らせる。</p> <p>□信二に自我関与して考えることで、信二の考える「クール・ボランティア」が、「身近なボランティア」とはかけ離れたものであることを捉える。</p> <p>□信二に自我関与して考えることで、多角的な気持ちを出させる。</p> <p>□いつの間にか、夢中で働いている信二の気持ちを考えることで、ボランティアの意義に迫れるようにする。</p> <p>□信二のボランティアに対する考えの変容を捉えさせる。</p>
	<p>3 自分自身を振り返って考える。</p> <p>○これまでに、みんなの役に立った経験はありませんか。そのとき、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会の後に、体育館の片付けをしました。きれいになって気持ちよかったです。「5年生、ありがとう。」と言われて嬉しかったです。 ・休んでいた友達の代わりに当番の仕事をしました。友達の役に立って嬉しかったです。 	<p>□自分自身とじっくり向き合えるように十分な時間を設定する。</p> <p>☆みんなのために働いたときの気持ちについて考えている。(道徳ノート・発言)</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>□児童が前向きに働く様子が伝わる写真を紹介する。</p>